

大学のミッションと国際化

—ハワイ大学マノア校の留学支援—

渡部 晃正

(平成27年1月7日査読受理日)

Achieving the International Mission of the University by Promoting Study Abroad: A Case Study of the University of Hawai'i at Mānoa

WATANABE, Terumasa

(Accepted for publication 7 January 2015)

キーワード：大学のミッション，大学の国際化，海外留学，国際交流，ハワイ大学マノア校
Key words：Mission of the University, Internationalization of the University, Study Abroad,
International Exchange, the University of Hawai'i at Mānoa

1 研究の目的

本稿の目的は、大学のミッションとしての国際化について、大学のおこなう留学支援とのかかわりから考究することである。国境を越えてモノ、カネ、情報が加速度的に行き交い、社会のさまざまな分野においてグローバル化¹⁾が進展するなか、大学は、海外の大学と学術協力を構築し、教員・学生の交換協定を結び、留学生の送り出しと受け入れを促進し、海外分校を設置するなど、国際化を進めてきた。現代米国の大学において、留学は「キャンパスの国際化という大きな目標に向けて邁進するための主要なメカニズムあるいは組織的活動の1つ」(Twombly et al. 2012, p.12)と位置づけられ、学生の交換留学や単位互換制度をとおして留学プログラムの拡充が図られてきた。また、9.11米国同時多発テロ、イラク戦争、アブグレイブ刑務所捕虜虐待事件などをきっかけに、留学生を送り出すことは、短期的には傷ついた米国の名誉を回復するものとして、長期的には国際紛争の解決を助けるものとして、もっとも効果的な外交手段の1つとみなされるようになった(Lewin 2009)。留学は、国際情勢の影響を強く受ける多面的な要素をもった現象であり、大学という枠組みだけで語り尽くされるものではない。しかしながら、実際の留学支援、具体的には留学プログラムの策定・提供は、おもに大学によって担われている。そして、その取り組みの背景には、各大学独自のミッションとしての国際化があると考えられる。

20世紀を通して、米国の大学は、教育、研究に加え、社会貢献(あるいは地域貢献)をもっとも主要な目的の1つに掲げて発展してきた。しかしながら、今日、国際化

を大学運営の基本方針に加えることもめずらしくはなくなり、例えば、ジョージワシントン大学、ミシガン大学、ペンシルバニア州立大学といった著名な大学のミッション・ステートメントに国際化を示す文言を見ることができ(Scott 2006)。明文化されている大学のミッション・ステートメントには、各大学の歴史的変遷や社会的・文化的存立基盤が反映されており、国際化の位置づけ、そして具体的な取り組みは多様である。そこで本稿では、地理的・歴史的特性から国際交流に力を入れてきた米国のハワイ大学マノア校(the University of Hawai'i at Mānoa以下、UHMと称する)を事例的に取りあげ、大学のミッションとしての国際化を把握し、それが大学のおこなう留学支援とどのようにかかわっているのかを明らかにする。さらに、そこで得られた知見をもとに、現代日本の留学生送り出しの状況に照らし合わせ、大学のミッションとしての国際化について論じることとする。

2 米国における海外留学の動向

まず、留学という現象について、その世界的な趨勢を把握する。留学を中心とする国際人物交流は、第二次世界大戦後の世界システムのなかで、目立たないながらも着実に拡大を遂げてきた現象である。過去30年間にわたり、全世界の自国以外で学ぶ留学生²⁾の数は劇的に増加しており、1975年に80万人であったものが、2011年には430万人となり、その数は5倍を超えている。この背景には、学術、文化、社会、政治などの領域における国際的な連携促進に対する関心の高まり、国際化の進展にともない海外高等教育へのアクセスが容易になったこと、渡航費用が安くなったことなどがある。加えて、高いスキルの人材を求める労働市場のグローバル化は、学生が高等教育を受け

るなかで国際的な経験を積むことへの誘因となっている (OECD 2013)。そのなかで米国は、世界最大規模の留学生受け入れ国となり、2011-12年度には、764,495人の留学生を受け入れている (IIE 2012)。

次に、近年の米国における海外留学の動向について見ていくことにする。米国の国際教育協会 (IIE 2012) によると、2010-11年度には、273,996人の学生が単位取得を目的として米国から海外へ留学している。この数字は、同年度に全米の高等教育機関に在籍していた学生19,903,000人の約1.4%に相当する。海外で学ぶ学生の数は、年々増加傾向にあり、2000-01年度は154,168人であったので、この10年間で約1.8倍増加したことになる。しかしながら、米国は、海外への留学生送り出しの約2.8倍の留学生を海外から受け入れている。米国で学ぶ留学生の多くは学位取得を目的としているが、その反対である米国の学部学生が海外へ留学する場合、期間は比較的短く、現地大学での学位取得を目的とせず、単位取得を目的とし、文化的な経験を積むことや語学学修が主な活動目的となっている (Altbach 2004b)。

2010-11年度の米国からの留学先を国別に見ると、1万人以上の学生が留学先として選んでいるのは、英国 (33,182人)、イタリア (30,361人)、スペイン (25,965人)、フランス (17,019人)、中国 (14,596人) の5カ国で、ヨーロッパの国々が上位を占めている。しかしながら、この10年間において、留学先に変化が見られた。留学先を地域別の占有率で見ると、2000-01年度には、ヨーロッパ63.1%、ラテン・アメリカ14.5%、アジア6.0%、アフリカ2.9%であったが、2010-11年度には、ヨーロッパ54.6%、ラテン・アメリカ14.6%、アジア11.7%、アフリカ5.1%となり、伝統的な留学先であるヨーロッパの比率が下がり、その一方で、留学先としてのアジアとアフリカの占める割合が大きくなった。また、留学期間を見ると、短期留学 (夏期または8週間以内) は58.1%、中期留学 (1 Semesterまたは1ないし2クォーター) は38.0%、長期留学 (1年) は3.9%となり、長期間にわたって留学する者は少ない。留学時期については、3年次 (Junior) 35.8%、4年次 (Senior) 23.4%、2年次 (Sophomore) 12.6%、不明 (Unspecified) 10.3%、大学院修士課程 (Master's Students) 8.5%、1年次 (Freshman) 3.3%の順となっており、3年次での留学がもっとも多く、米国のジュニア・イヤー・アブロードの伝統が残っていることがうかがえる。なお、2010-11年度の留学生の性別をみると、女性64.4%、男性35.6%で、この10年間ほぼ同じ比率で推移している。

米国からの海外留学は、留学生の受け入れと同様に、大学の国際化にとって中心的な取り組みの1つとされている。大学側には、学生が留学プログラムに参加し、海外で学習することが大学の提供している教育の幅を広げ、さ

らに強化することができるという認識がある (Burn ed. 1991)。そして、大学による留学機会の拡大や多様化の目的は、米国市民の見聞を広げ、主要な言語に精通している専門家を増やし、卒業生を専門家として相互関連し合う世界に送り出すという必要性に結びつけられている (IIE 2011)。

留学機会を提供しているのは、大別すると、米国の大学、受け入れ国の大学、第三者機関である (Tyner 2013)。さらに、学生が選択可能な留学プログラムを詳細に分類すると、①在籍している大学の提供するプログラム、②複数の大学により構成されるコンソーシアムの提供するプログラム、③他大学のプログラム、④海外の大学が実施するプログラム、⑤国際教育交換協議会 (CIEE: the Council on International Education Exchange)、米国外国研究協会 (AIFS: the American Institute for Foreign Studies)、国際学生教育協会 (IES Abroad: the Institute for the International Education of Students) などの第三者機関のプログラムに分けられる (Twombly et al. 2012)。しかし実際には、70%以上の学生は、自らが在籍する大学のプログラムに参加している (IIE 2012)。したがって、留学支援体制とそこで提供される留学プログラムの内容が大学の国際化進展の鍵となる。

以上、留学の世界的動向および米国における留学の特徴について見てきた。次に、これらを踏まえ、米国50番目の州であるハワイのオアフ島に立地するUHMのケースについて見ていくことにする。

3 ハワイ大学マノア校 (UHM) のミッションと留学支援

3.1 UHMのミッション

1907年に創設されたUHMは、3つの大学と7つのコミュニティ・カレッジから構成されるハワイ州立大学システム (the University of Hawaii System) の旗艦校で、専任教員数は約1,200人、学生数は約2万人 (大学院生とパートタイム学生を含む) のハワイ州最大の総合大学である。UHMでは、19の学部・大学院等において200以上の学位プログラムが用意され、学士号から博士号までを授与する。UHMは、『2011 - 2015 戦略計画』(2011) のなかで、次のようなミッション・ステートメントを掲げている。

UHMは、3つ (land, sea, space) のグラント (grant) を受けている大学として、学術研究の卓越性を求めるだけでなく、われわれを取り囲む地域、国家、国際社会のために貢献します。先住民であるハワイアンという言葉 Kuleana (責任・使命)、Ohana (家族)、Ahupua'a (土地) に込められた家族、地域、環境に対する責任というものを想起させる歴史的な価値を引き継ぎながら、マノア校

の教育質保証は、教室を超え、理論と実践の架け橋となり、創造性と批判的思考を育み、社会に貢献できるメンバーとなれるよう、学生の知的発達と成功を促すことを約束します (UHM 2011, p.4).

UHM は、米国本土から見て南西、東アジアから見て南東、オセアニアから見て北東という太平洋の中央に位置し、四方を海に囲まれた自然豊かな島々からなるハワイ州の中心、オアフ島に立地している。そのユニークな立地に由来して、「ハワイアン、アジアそして太平洋諸島からの影響に方向づけられた」大学として自らを定義している (UHM 2011, p.7)。実際、57%の学生は、アジアまたは太平洋の島々に起源をもつ家系の出身者である。さらに、ハワイ州自体、歴史的に見て、日本を含めたアジアからの移民が多いことで知られている。UHM は、このようなハワイの地理的・歴史的特性から、先住民を意味するハワイアン (Hawaiian: ハワイ語の kánaka maoli)、そしてアジアおよび太平洋地域に関連する教育と研究を重視しており、これらの分野で高い評価を得てきた。例えば、UHM は、全米の高等教育機関のなかで、もっとも多くのアジア・太平洋地域の言語が教えられている大学とされている。また、先に見たミッション・ステートメントにハワイ語が用いられていることからわかるように、大学のあり方として、ハワイアンの伝統文化を尊重し、それを教育のなかに取り込み、地域との結びつきを重視してきた。

3.2 UHM と地域の国際化

—地域から世界へ (Local to Global)

UHM の戦略計画のなかで、ミッションと並んで示されている「私たちの求める価値 (Our Values)」の1つに「地域から世界へ (Local to Global)」というスローガンが掲げられている。それは「マノアは、地域と世界の両方に貢献するという、他に類を見ない位置づけにある。すなわち、私たちは地域の独自性をモデルとする国際的なリーダーシップを発揮し、地域と深く関わっていくことを約束します」と説明されている (UHM 2011, p.5)。UHM は、知識と理解の統合を図りながら、地域と世界との理想的な出会いの場としての役割を果たすことを目指しているのである。

戦略計画では、ミッションに続く4つの戦略目標 (目標①: 教授と学習環境の変革, 目標②: 世界に通用する研究大学, 目標③: 社会に開かれた大学, 目標④: 卓越性の促進) が立てられ、目標①では、さらに6つの具体的な目標が示され、そのなかの1つに「国際的な学習機会の拡大」があげられている。それは、次のように説明されている。

マノアは、世界中から集う教授者と学習者の出

会いの場である。世界的な問題の地域的解決法を見いだすためのカリキュラムを組み込み、そして地域の問題や関心事に合わせた国際的な実践をうまく適合させることにより、私たちの国際的な多様性をうまく生かせるだろう。留学や国際交流のような国際的なプログラムへの参加を増やすことにより、学生たちの視野をよりいっそう広げることができる。私たちの取り組みには、教育改革に貢献する人々がその重要性を認識し、そして、その pono (正しさ) を示す卒業生を輩出することによって、この地にある私たちの素晴らしい伝統と価値が反映されるだろう (UHM 2011, p.13)。

このように、UHM は、学生の国際的経験、つまり留学や国際交流から派生する成果を大学のみならず地域へ波及させることを目指している。地域の課題を大学が担い、それが大学自身の国際化を進める原動力となっている。そして、戦略計画では、上記の目標の達成状況を把握するため、学生 (とくに、ハワイアン学生) の国際的な経験、つまり留学や国際交流への参加人数・状況をおもな指標として位置づけている。次に、UHM の具体的な留学支援について見ていくことにする。

4 UHM の留学支援

4.1 UHM の国際交流プログラム

UHM の国際交流は、学長をトップに据え、担当副学長ならびに副学長補佐が関与する全学的な活動として位置づけられている。マノア国際教育委員会 (MIEC: Mānoa International Education Committee) が設置され、ここで UHM の国際教育全般にかかわる事項が議論されている。この委員会のメンバーには、学部・研究科等の代表者の他に、留学生サービス・オフィス (ISS: International Student Services) と留学センター (SAC: Study Abroad Center) の所長、マノア国際交流オフィス (MIX: Mānoa International Exchange) と全米学生交流オフィス (NSE: National Student Exchange) の責任者が含まれている。MIEC は、2011年9月に「教育、研究、学問、地域貢献を通して、多様な民族と文化を取り込み、そして国際的な側面を統合しながら卓越性を促進すること」(UHM 2013, p.5) を委員会のミッションとして策定している。

図1は、UHM の国際交流プログラムに関連する部局等を組織系統図としてまとめたものである³⁾。UHM における国際交流の推進は、副学長補佐を長とする国際交流プログラム室 (OIEP: Office of International and Exchange Programs) の下位に位置する5部門により進められている。教員・研究員向け出入国管理サービス・オフィス (FSIS: Faculty and Scholar Immigration Services) は、

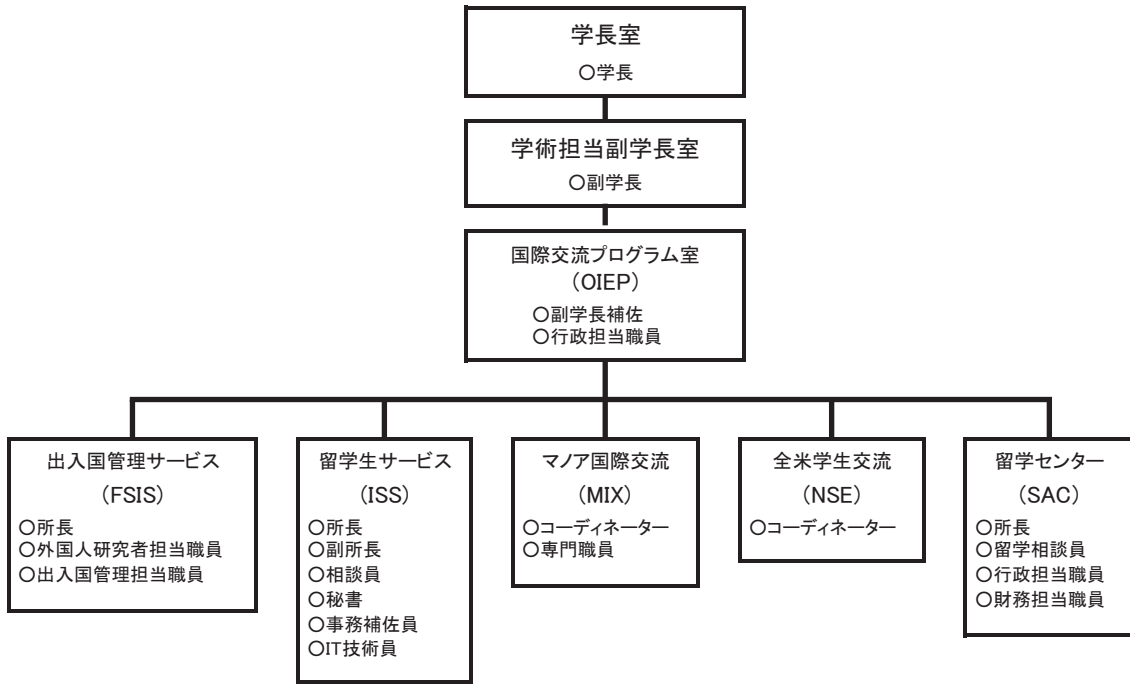


図1. UHMの国際交流プログラム関連部局等の組織系統図
出所) UHM (2013 p.6) を参考にして作成.

J-1 ビザによる交換訪問プログラムに関する事務手続きを担当し、教員・研究員等の出入国を支援している。ISS オフィスは、留学生の受け入れと各種サービスを提供している。MIX は、海外の大学と学生の交換協定を結び、UHM の学部学生および大学院院生に対して海外留学の機会を提供している。NSE は、学部学生に対して、全米学生交流コンソーシアムに加盟する米国本土ならびにカナダ、プエルトリコ、グアム、米国領ヴァージン諸島の180以上の大学で学修できる機会を提供している。NSE は、学生をカナダの大学へ送り出せるものの、対象となる学生の多くは、米国本土の大学で学修している。SAC は、UHM のカリキュラムにもとづいた授業コースを海外において履修できるプログラムとして提供している。

2012年秋学期、UHM は、語学研修を含めた86カ国1,148人の留学生を受け入れている。東アジアの国々からの留学生がもっとも多く、全体の約55%を占めている。上位の国を見ると、日本255人、韓国155人、中国146人、台湾57人、カナダ51人、ベトナム39人の順となる。なお、留学生の8%にあたる92人は学部の交換留学生である。

UHM の一部門であるアウトリーチ・カレッジ (Outreach College) は、国際教育プログラム (IP: International Programs) の一環として、英語集中コース (NICE: New Intensive Course in English) を開講している。NICE は、第二言語としての英語を集中的に学ぶプログラムで、10週間と3週間のコースがあり、コミュニケーション力の育成を目的としている。対象となるのは、個人またはグループで、短期の語学研修も受け入れている。

他方、第二言語研究学科 (Department of Second Language Studies) の実施するハワイ英語プログラム (HELP: Hawai'i English Language Program) は、UHM をはじめ、米国の大学への進学を目指す者をおもな対象とするアカデミック向けの英語プログラムである。NICE と HELP は、UHM の推進する国際交流のなかで、留学生のニーズに合わせた語学面の教育サービスを担っている。また、大学の敷地内には、米国とアジア・太平洋地域における国際人物交流に貢献してきた非営利団体の East-West センターがあり、同センターは、UHM と連携しながら留学生に対する支援をおこなっている。

以上のように、UHM では多くの部署が国際交流にかかわっていることがわかる。UHM の学生送り出しに関しては、大別すると① MIX、② SAC、③ NSE、④ 学部・大学院等が独自に実施する国際学術プログラム、そして⑤ 教員個人が支援する留学に分けられる。ここでは、以下、UHM の留学支援の中核を担っている MIX と SAC の活動について見ていくことにする。

4.2 マノア国際交流 (MIX) の留学支援

UHM は、海外の122大学と国際協定を締結している。このうち76大学との間で学生の交換協定を結んでいる。MIX は、この交換協定にもとづく UHM 学生の送り出しと協定大学からの留学生受け入れ業務を担当している。UHM と学生の交換協定を結んでいる大学は、世界23カ国におよぶ (表1)。協定を結んでいる大学数を国別に見ると、全体の32%を占める日本を筆頭に、以下、韓国、

表 1. UHM と学生交換協定を結んでいる国別の大学数

国名	協定大学数	主な協定大学等
日本	24	京都大学, 東北大学, 早稲田大学, 同志社大学, 他
韓国	12	ソウル国立大学, 慶北国立大学, 延世大学, 西江大学, 他
中国	5	香港中文大学, 復旦大学, 浙江大学, 他
ニュージーランド	5	ワイカト大学, オークランド大学, ヴィクトリア大学ウェリントン, 他
オーストラリア	4	モナシュ大学, ディーキン大学, ラ・トロープ大学, 他
インドネシア	3	ガジャ・マダ大学, インドネシアイスラム大学, ビナ・ヌサンタラ大学
タイ	3	チュラーロンコーン大学, マヒドン大学, タンマサート大学
ドイツ	2	テュービンゲン大学, WHU オットー・バイスハイム経営大学
フィリピン	2	フィリピン大学ディリマン校, アテネオ・デ・マニラ大学
台湾	2	台湾国立大学, 国立中山大学
英国	2	ロンドン・コンテンポラリー・ダンス・スクール, イースト・アングリア大学
カナダ, フランス, シンガポール など12カ国	各1	キャピラノ大学 (カナダ), ネオマ・ビジネススクール (フランス), シンガポール国立大学 (シンガポール), 他

出所) MIX の HP (http://manoa.hawaii.edu/mix/partner_universities/index.html 2014 年 9 月 30 日最終確認) を参照。

中国, ニュージーランド, オーストラリアと続く。UHM は、大学間協定にもとづく学生の送り出し先として、アジア・太平洋地域の大学をより多く選んでいることがわかる。

UHM の学生は、MIX を通して 1 ないし 2 セメスターあるいは夏休みの短・中期間、協定大学において交換留学生として学ぶことができる。留学の要件は、2 年生以上であること、3.0 以上の GPA (Grade Point Average) を維持していることである。ただし、場合によっては、GPA が 2.5 以下でも留学が認められことがある。UHM へ授業料を支払うことにより、留学先の大学へ授業料を支払う必要はないが、渡航費、現地での生活費等は自己負担となる。なお、夏期留学に関しては、先方の大学へ直接支払う授業料が必要となることもある。また、留学先の大学で得た単位は、UHM へ申請し、認められれば互換単位となる。

2012-13 年度には、162 人の UHM 学生が協定先の大学で留学生として学んでいる。留学先を国別に見ると、韓国 67 人、日本 37 人、中国 (香港) 11 人の順番となり、全体の 71% がこれら東アジアの 3 カ国に留学している。また、留学者の 90% は学部学生で、専攻分野は、ビジネス、韓国語、日本語の順に多く、留学先の国の言語を学ぶケースが多い。

一方で、MIX は、海外からの留学生の受け入れ支援業務もおこなっている。留学生は、タイプ I : 大学間の交換協定にもとづき、授業料が免除される相互交換としての留学生、タイプ II : 協定を結んでいる大学からの留学で、ホアキパ奨学金が授与されるが、州外出身者の授業料が適用される留学生、Ⅲ : 州外出身者の授業料が適用される一般の留学生の 3 タイプに分けられる。UHM は、協定大学からの留学を促進するため、ハワイ語で訪問者 (visitor)

を意味するホアキパの名を冠する留学生向け奨学金制度 (Hoakipa Scholarship Program) を設けており、MIX がこの奨学金の取り扱い担当部署となっている。この奨学金により、授業料の約 15% を補うことができる。ちなみに、ハワイ語の *hoa* は友人 (friend)、同じく *kipa* は訪問する (visit) という意味である。2012-13 年度には、MIX は、148 人の留学生を受け入れている。その内訳を見ると、授業料が免除されるタイプ I は 108 人、授業料が徴収されるタイプ II と III をあわせて 40 人である。後者の、授業を支払うタイプの留学によって生じる大学の収入は、6 千 800 万円に達する (1 ドル = 102 円で計算。以下、同様とする)。MIX が支援する留学生 148 人の出身国を見ると、韓国 51 人、日本 33 人、ノルウェー 22 人となり、これら上位 3 カ国からの留学生で全体の 72% が占められている。

4.3 留学センター (SAC) の留学支援

SAC は、「海外での学修を通しての知識獲得を促し、その国の“文化に浸る (cultural immersion)” ことによって異文化理解を促すこと」をミッションとして掲げている。そのため、SAC は、海外において学位取得につながる授業コースを提供し、新たなコースの開発をおこなうとともに、留学に関する各種調査を実施している。SAC の提供するプログラムの特徴は、大学のカリキュラム上の必要性に応じて海外で授業コースが開講されていること、現地語に関する科目以外は英語で授業が実施されていること、UHM のコーディネーター教員が一部の授業を担当していること、近隣の他大学学生もパートタイム学生として UHM に登録することにより、この SAC のプログラムに参加可能なことなどがあげられる。2012-13 年度に、SAC の留学プログラムに参加した学生は 293 人で、計 345 の授

表2. 桜美林大学において開講される UHM の授業科目 (例)

開講科目 (例)	開講学期	UHM での同等科目・コース番号
比較文化	春学期	ASAN 491
日本の教育と社会	春学期	EDEF 445
日米交流史	春学期	AMST 319
異文化コミュニケーション	秋学期	COM 340
日本民俗学概論	秋学期	ENG 380
現代日本論	春学期	JPN 407B または JPN 399
日本の芸術	秋学期	ART 380
日本の映画	春学期	EALL 325D
日本の舞踊	春学期	THEA 428
日本の文化交流	秋学期	ANTH 482
日本の文化	秋学期	EALL 325D
日本の経済	秋学期	ECON 317
日本の文学	春学期	EALL 273
日本の経営	秋学期	BUS 367
日本の政治	秋学期	POLS 307H
日本の社会	春学期	SOC 357
日本女性文学	秋学期	EALL 372B
日本現代史	秋学期	HIST 322
マルチメディア&グローバル教育	秋学期	IS 330
東アジアの政治地理学	春学期	POLS 307B
戦後のビジネスと金融	春学期	BUS 367
日本前近代史	秋学期	HIST 321
日中関係論	春学期	POLS 307H

出所) SAC, Spring/Year in Machida Course Offerings の 2013 年度版を参考に作成.

業コースが履修されている。345 授業コースのうち 28 コースは、8 人の UHM 教員により担当されている。なお、プログラムへの参加要件は、プログラムごとにそれぞれ異なる。

また、参加学生の募集方法にも特徴が見られる。それは、プログラムへの参加者を募集する際に、海外の大学等の名称を前面に出さず、プログラムが実施される場所 (20 都市) で募集をおこなうことにある。例えば、Shanghai China (上海・中国)、London England (ロンドン・英国)、Berlin Germany (ベルリン・ドイツ) などのような表示方法である。実際には、上海では同済大学、ロンドンではローハンプトン大学 (Roehampton University)、ベルリンではベルリン自由大学 (Freie Universität Berlin) においてプログラムが実施されている。日本に関しては、Kobe Japan と Machida Japan という 2 つの都市名で示されたプログラムで募集がおこなわれているが、神戸市では甲南大学で、町田市では桜美林大学においてそれぞれ授業がおこなわれ、両大学の学生も、UHM の授業コースを履修できるようになっている。甲南大学で開講されるプログラムについては、UHM、イリノイ大学、アリゾナ大学、ピッツバーグ大学の 4 大学でコンソーシアムが構成され、

イリノイ大学を幹事校として共同運営がなされている。なお、甲南大学と桜美林大学は、ともに先に見た MIX の協定大学には含まれていない。

4.4 SAC の海外プログラム

— Machida Japan (町田, 日本) の事例

SAC の実施する海外プログラムについて、桜美林大学において実施される Machida Japan プログラムの例を取りあげて見ていくことにする。このプログラムへの参加者は、選考を経て決められる。プログラムでは、学部の 2～4 年生向けの授業コースが設定され、応募に際しては、3.0 以上の GPA と英語が堪能で、事前に履修すべき科目において良い成績をおさめていることが求められる。GPA が基準に満たない場合でも、例外的に認められることがある。また、英語を母語としていない場合、TOEFL600 点以上または第二言語研究学科の一部門である英語学校 (ELI: English Language Institute) が実施するプレイスメント・テストに合格していることが必要となる。選考にあたっては、応募者の学業成績、プログラムへの参加理由、異文化に対する理解、新しい環境への適応力が考慮され、さらに合計 12 時間の事前指導 (3 クラス) を受けなければ

ばならない

学生は、プログラム参加時に、1学期13単位分の科目を履修する必要がある、そのなかにはUHMのコーディネーター教員の担当科目が含まれていなければならない。また、自身の日本語レベルに応じてコア科目の日本語(6レベル)から1つを受講しなければならない。加えて、Japanese Kanji I・II(漢字I・II)、Japanese Speaking I・II・III、Japanese Writing I・II・IIIなどの言語系科目(各1単位)を選択科目として受講することができる。

表2は、桜美林大学において開講されている一般科目の授業コース(例)を示したものである。履修できる科目は、文化、政治、経済、教育など多岐にわたり、その多くは日本に関連するものである。授業は、英語でおこなわれ、桜美林大学の学生も受講することができる。ここで履修した科目の単位は、すべて表右に示されているコード番号の科目の互換単位となるが、桜美林大学において4単位科目として開講されているものは、UHMでは3単位科目として扱われる。

留学にかかる費用は、2013年春学期のみの場合で約118万円、2013-14年度(通年)の場合で約220万円とされる。これには、授業料、食費を含むホームステイ代、教科書代、保険費用などが含まれているが、渡航費は含まれていない。学生は、大学内外の各種奨学金に応募することもできる。また、アパートを借りて自炊をする場合には、別途、自己負担の費用が生じる。ホームステイ先の確保をはじめ、現地でのサポートは桜美林大学国際学生支援課が担当し、そこが留学生に対して各種文化活動プログラムや小旅行への参加機会を提供している。さらに、留学生は、桜美林大学のクラブ活動や社会活動に参加することができ、授業以外に日本人学生や地域社会とさまざまな交流機会をもつことができる。

5 考察

まず、UHMの事例から明らかなことは、大学をはじめ学内複数部局のミッション・ステートメントのなかに国際化が明確に位置づけられていることである。国際化の目的は、グローバルな視野をもつ人材の育成のみならず、地域の課題解決とも連動している。そこには、太平洋に浮かぶ島々から構成されるハワイ州、ハワイアン人の伝統文化、アジアからの移民に代表される多様な地域コミュニティ、アジア・太平洋地域との広範囲な学術交流など、UHMの地理的、歴史的さらには民族的な背景があることを見いだすことができる。また、大学のミッションとしての国際化は、独立した1つのミッションというより、大学の主要な目的である教育、研究、社会貢献のすべてにかかわる複合的なミッションとして捉えることができる。

次に注目されるのは、UHMが学生に対して多様な留学

の機会を提供することにより国際化を促進していることである。そこでは、UHMの組織的な留学支援を見いだすことができる。その代表的なものがMIXの学生交換であり、SACの海外留学プログラムである。MIXは、学生の交換協定にもとづく多くの留学先を用意しているが、協定大学での学修は、UHMの卒業に必要な単位に必ずしも結びついているわけではない。反対に、SACの留学プログラムは、大学のカリキュラムに沿って授業コースが用意されているため、現地で得られた単位は、そのままUHMの単位となる。加えて、SACの授業コースでの教授言語は英語である。UHMに近い環境で学修できることは、留学が卒業の延長につながるのを避けることを可能にするものである。国際経験を積みながらも、単位取得に不利にならないような配慮がなされているのである。また、MIXの学生交換に参加する場合、UHMへ支払う授業料が充当されるが、SACのプログラムの場合、留学先により費用が異なる。このように、UHMは、学生に対していくつかの選択肢を用意することにより、学生のニーズにあわせたプログラムを開発してきたのである。

さらに、UHMの国際交流には際立った特徴がある。前述したように、米国全体で留學生の受け入れ、送り出しを見ると、明らかに受け入れ超過となっている。しかし、MIXのおこなう学生交換では、送り出しが受け入れを上回っており、全米の傾向とは異なることに注目しておきたい。さらに、UHM学生の留学先としてアジア諸国が多く選ばれていることにも着目しておきたい。これは、先に見た大学の地理的・歴史的特性に対応しているものと考えられる。

米国の大学の国際化への取り組みは多様であり、UHMはその一例に過ぎない。しかし、UHMの国際化ミッションとそれに対応した多様な留学支援の取り組みは、大学教育の充実を図るうえで参考となるものである。

6 議論

近年、日本の大学改革のなかで、各大学がミッションやポリシーを明確に示し、それを追求することが求められている。そして改革を推し進めるためのインセンティブとして、国からのさまざまな助成がおこなわれてきた。本稿で論じてきた大学の国際化もその例外ではない。

日本の留學生政策は、1983(昭和58)年の「留學生受入れ10万人計画」や2008(平成20)年の「留學生30万人計画」からもわかるように、留學生の受け入れ拡大に重点が置かれてきた。文部科学省の推進する「国際化拠点整備事業(大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業)」]、いわゆる「グローバル30」においては、特定の大学を拠点化しつつ、留學生の受け入れ強化を進めている。ここで選定された13大学は、東京大学、京都大学、大阪

大学など、研究志向型の国立大学（計7校）と、早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学などの比較的に規模の大きな私立大学（6校）である。選定された大学には、英語のみで修了できる学位プログラム、奨学金や宿舎の確保といった留学生受け入れ体制の充実、留学生獲得のための海外事務所設置などが求められている。

また、2002（平成14）年11月に設置された中央教育審議会大学分科会留学生部会は、日本から諸外国に留学する日本人学生について、これまで必ずしも明確な留学生政策にもとづく支援策が講じられてこなかったことを指摘している。しかし、翌年にまとめられた『新たな留学生政策の展開について（答申）～留学生交流の拡大と質の向上を目指して～』では、留学生交流の意義（理念）として、①諸外国との相互理解の増進と人的ネットワークの形成、②国際的な視野を持った日本人学生の育成と開かれた活力ある社会の実現、③我が国の大学等の国際化、国際競争力の強化、④国際社会に対する知的国際貢献の4つが掲げられたが（中央教育審議会 2003）、来日する留学生との交流による国際的な視野をもつ日本人学生の育成についてはふれられているものの、日本からの学生送り出しについて、必ずしも強調する内容とはなっていない。

さらに、両角（2011）は、文部科学省の「平成20年度海外の大学との大学間交流協定、海外における拠点に関する調査結果」を利用し、日本の大学と海外の大学との学生交流、単位互換、ダブル・ディグリーの状況について分析をおこなっている。このなかで、大学間の交流協定にもとづく学生交流制度の整備により、日本の大学生が海外の大学で授業を履修する機会は急速に増えているが、実際には送り出し数がゼロの大学もあり、実態としての学生交流はあまり進んでいないことを指摘している。

現代日本における現象としての留学は、海外からの留学生の受け入れが先行し、相互交流とは言いがたい状況にあり、また、送り出しについては、大規模大学や「国際」「グローバル」といった名をもつ大学・学部等を中心に進められてきた。しかし、米国同様、日本の大学もグローバル化の荒波にさらされており、学生の送り出しについての積極的な方策が必要となっている。その際、海外大学への留学者の量的拡大のみを求めるのではなく、各大学は、自らのミッションを踏まえ、あるいは新たに国際化ミッションを打ち立て、それとの関連から留学プログラムを策定し、大学の規模にかかわらず必要な支援を受けながら国際化を進める必要がある。ミッションとのかかわりにおいて国際化が進展することが大学教育の質の向上につながると考えられる。この点において、事例的に取りあげたUHMの国際化ミッションとそれに裏付けられた留学支援のあり方は、国際化を急ぐ日本の大学にとって参考となるものである。そして、グローバル化への対応として、日本の学生が

海外大学へ留学するのに必要な費用を支援する策もあわせて充実させていかなければならない。

注

- 1) アルトバックとナイト（Altbach 2004a, Altbach & Knight 2007）は、高等教育におけるグローバル化（globalization）と国際化（internationalization）が混同されやすいことを指摘し、グローバル化を、高等教育に対して、さらなる国際的関与を直接的、必然的に要請する経済、政治、テクノロジーといった広範囲にわたる影響力と定義づけている。
- 2) OECD（2013）は、自国以外で学ぶ学生を外国人学生（foreign students）、これに含まれる者のなかで、永住者または定住者でなく、学生ビザや就学許可証を取得する必要のある学生を留学生（international or mobile students）と定義している。また、留学には、期間が1年に満たないもの、在学を必要としない交換留学プログラム、短期の研修など、広義の留学もあるため、全世界の自国以外で学ぶ学生の実数は、OECDの示す数字よりも多いと考えられる。本稿では、上記の定義による留学生と広義の留学を適用し、米国の大学から海外の大学への留学について言及するものである。
- 3) UHMの実施する国際交流プログラムについては、UHM（2013）およびMIX（<http://manoa.hawaii.edu/mix/>）、SAC（<http://www.studyabroad.org/>）、NSE（<http://www2.hawaii.edu/~nse/Outgoing.htm>）など、各部署のホームページならびにUHMにて収集した各プログラムの学生向け募集パンフレットを参照している。各HPの最終確認日は、2014年9月30日。

文献

- Altbach, Philip G. (2004a). Globalization and the University: Myths and Realities in an Unequal World, *Tertiary Education and Management* 10, pp.3-25.
- (2004b). Higher Education Crosses Borders: Can the United States Remain the Top Destination for Foreign Students?, *Change Mar/Apr* 36(2), pp.18-24.
- Altbach, Philip G. and Knight, Jane. (2007). The Internationalization of Higher Education: Motivations and Realities, *Journal of Studies in International Education*, Vol.8 No.3, pp.290-305.
- Burn, Barbara B. (ed.). (1991). *Integrating Study Abroad into the Undergraduate Liberal Arts Curriculum*, Greenwood Press. (= 井上雍雄・訳 (1998), 『アメリカの学生と海外留学』玉川大学出版部.)

- 中央教育審議会 (2003), 『新たな留学生政策の展開について (答申) ~留学生交流の拡大と質の向上を目指して~』 文部科学省. (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chuchu0/toushin/03121801/009.pdf 2014年9月30日最終確認)
- Institute of International Education (IIE). (2011). *Student Mobility and the Internationalization of Higher Education: National Policies and Strategies from Six World Regions*, IIE.
- (2012). *Open Doors 2012*, IIE.
- Lewin, Ross. (2009). Transforming the Study Abroad Experience into a Collective Priority, *Peer Review Fall*, pp.8-11, the Association of American Colleges and Universities.
- 両角亜希子 (2011), 「大学のグローバル人材育成はどこまで進んでいるか」『リクルート カレッジマネジメント 168 / May - Jun.』, 14-24 頁.
- OECD. (2013). *Education at a Glance 2013: OECD Indicators*, OECD Publishing. ([http://www.oecd.org/edu/eag2013%20\(eng\)--FINAL%2020%20June%202013.pdf](http://www.oecd.org/edu/eag2013%20(eng)--FINAL%2020%20June%202013.pdf) 2014年9月30日最終確認)
- Scott, John C. (2006). *The Mission of the University: Medieval to Postmodern Transformations*, *The Journal of Higher Education*, Volume 77, No.1, pp.1-39.
- Twombly, Susan B., Salisbury, Mark H., Tumanut, Shannon D. and Klute, Paul. (2012). *Study Abroad in a New Global Century: Renewing the Promise, Refining the Purpose*, Jossey-Bass.
- Tyner, Nicole. (2013). International Cooperation: The Study Abroad Experience, *Michigan Academician Vol.41(3)*, pp.377-388.
- University of Hawai'i at Mānoa (UHM). (2011). *2011-2015 Strategic Plan*. (<http://www.manoa.hawaii.edu/vision/pdf/achieving-our-destiny.pdf> 2014年9月30日最終確認)
- (2013). *2012-13 Annual Report International Education*. (http://manoa.hawaii.edu/international/data_reports/reports/2012-2013_UHM_Intl_Ed_Report.pdf 2014年9月30日最終確認)

付記

本稿は、平成25年度東京家政大学海外研修派遣による研究成果の一部である。

Abstract

The aim of this article is to reflect on the international mission of the university as a critical dimension of university activities. Study abroad has expanded vigorously in an increasingly-globalized world. In the U.S., study abroad has added new university partners and provided the basis for more participation with one-semester, short-term and summer programs. This has been made possible by increased resources on campus. UHM has a unique learning environment by virtue of its location as an island state and provides opportunities for undergraduate and graduate students to study overseas in line with the international mission of the university. Various academic units on the UHM campus, with the assistance of the international exchange coordinator and specialists, maintain and support international agreements with universities around the world. Participants in study abroad programs will be expected to be globally conscious, cross-culturally competent, and prepared to address serious local and global issues in the future. With the evolution of study abroad programs, UHM is making substantive headway toward its institutional mission goals. UHM's program represents a comprehensive and ambitious model, not just for the internationalization of study abroad students' degree programs but also the internationalization of UHM's curriculum, campus and the local community.